

6.風の森

平成30年度より風の森として開設7年目を迎え、拠点も新たにサテライト施設である【風の街】ができ、2拠点体制で新スタートをすることになります。30年度は、2名の利用者さんを迎え、利用人数も28名となります。

新年度を迎えるにあたり、スタッフ間の連携と保護者会と連携をし、風の森と風の街が地域で必要とされる施設として発展していき、そこで活動する利用者さんひとり一人が、充実した日々を送ることを目指し、支援の向上に取り組んでいきます。

1 利用者さんが主体となれる活動を計画

利用者さんが主体となれる活動に取り組んでいきます。また、取り組んだ活動が、利用者さんの仕事として工賃に反映される活動に取り組みます。

地域で必要とされる施設として、作業を通じてつながっていくことのできる【就労継続C型】事業活動を取り入れていきます。

・農作業の充実

平成29年度から準備をしている農作業を、利用者さんの新たな活動として取り入れ、将来的に仕事に結びつけていくことのできるよう進めていく。

具体的には【森の恵み】ブランドを構築していく。

風の森＝ユメシホウ（小麦）栽培。腐葉土の栽培。ユメシホウは収穫後、なごみかぜ工房でパンの試作をし、利用者さんと保護者会で試食をする。

風の街＝多肉植物の充実。2年間取り組んできた経験をもとに、栽培を広げ販路を築いていく。

なごみかぜ工房の農地を利用し、工房の利用者さんと一緒になって、農作物の栽培をおこなう。

・地域と繋がることのできる作業に取り組む

T. Kファーム（袋井市豊沢）

新聞紙を利用しておこなうトマト箱の緩衝剤作り 週／500枚×5円

通年作業として契約

2 利用者さんの個々の特性を尊重した支援を充実する

新体制になり、活動の場の雰囲気にも変化があると感じています。風の森、風の街ともに、利用者さんが気持ちよく充実した活動を送ることができるよう、支援を充実していきます。

・スタッフが利用者さんひとり一人の特性を理解し、統一した支援をおこなう

- ・ケース検討会議を充実させる
平成 29 年 1 月度から取り入れている、第 4 火曜日のスタッフ会議の時間を、クラスケース検討会議の時間として活用し、十分な検討をするなかで、適切な支援を組み立てていく
- ・スタッフの研修の場を設ける
自閉症の理解と支援
重症心身障がいの支援 等

3 【報・連・相】のできる環境と安心安全を提供できる環境づくり

利用人数が増えることで、過去にも支援中の事故が発生しています。平成 29 年度も利用者さんの転倒事故など、複数件のヒヤリハット報告が上がっています。

平成 29 年度より、継続した目標となりますが、スタッフがどんな些細なことでも話し合える環境をつくり、利用者さんだけでなく、毎日送り出していただけのご家族も安心していただくことのできる施設の環境を整えていきます。

- ・チームワークで利用者さんの支援をおこない、些細なことでも話し合える環境を整える【報告・連絡・相談】
- ・支援事故が発生しないための支援・・・ヒヤリハット報告をまとめ、対策を立て支援に活かしていく

また、事故が起きてしまった場合の、早期報告と早期対応の徹底

以上、風の森と街の風に通う利用者さんが、楽しく元気に活動でき、多くの皆様から信頼いただける施設として発展できるよう、管理者として勉強を重ね、スタッフの支えになれるよう努めてまいります。

また、スタッフ全員が利用者さんに視点をおき、利用者さんが主体となって活動できる支援と環境を整えてまいりますので、よろしくお願いいたします。

平成 30 年 3 月 19 日
風の森 後藤幸一郎
風の街 松山 真也